

(第1回平成の大工棟梁育成施策検討会議) 議事録

記録日：2015年8月24日

記録者：河野 公宏

団体名	一般社団法人全国古民家再生協会 平成の大工棟梁育成施策検討会議
開催日時	2015年8月24日(月) 18:00~20:00
開催場所	フォーラムミカサエコ7F会議室
出席者	メンバー：井上幸一、江崎幹夫、鈴木健規、長井正広、大森敏昭、貴船一樹、河野公宏、山口昇、大室幸司、伊藤郁夫、奥田拓司、笹川征一、金原建雄、井上静夫(順不同) オブザーブ：多数 メディア：日本住宅新聞社、建通新聞社、新建ハウジング (敬称略)
議事	<ol style="list-style-type: none">開会挨拶 当会議、発起人である井上氏より会発足の経緯並びに未来を見据えた日本の技術継承に向け会議の趣旨を伝えた。メンバー自己紹介 参加メンバー各自より事項紹介がおこなわれた手刻みとプレカットに関して<ul style="list-style-type: none">これまで建築大工技能士を取得したが、活かす場面がない。生活する上で、理想だけを追うことは残念ながら出来ない。手刻みの方が長持ちする事明らか。消費者に伝えていかなくてはならない手刻みを復活させる事こそが「国産木材の活用」に繋がる平成の大工棟梁育成連携イメージの解説 井上氏よりポリテクセンター等と連携を図ったイメージの解説をおこなった。<ul style="list-style-type: none">製品として販売できるまでにどのくらいの期間を想定・設定しているのか？いきなり墨付けという流れは、大工としての順序からは真逆だが良いのか？カリキュラムの順番も再考が必要なのではないか？消費者にとって手刻みの魅力を伝えなければいけないし、これからの少子高齢化が進む中、大工の中にも分類があってもいいのではないか？大工さんの目線を変えていくことも大事なのではないか？この会は、「造る」という事と「売る」事を切り離していかなければなら成長しないのでは？仙台のポリテクセンターに話を聞くと、来年の入学予定者は5名程度。週1度しか座学しかなく、ハンドプレカットとする場合、先を見据えて工程を立てていく必要があるのではないか？技能士を活かして大工さんの格付けをしっかりと消費者につたえるべきログハウスのような「マシンカット・ハンドカット」の区別を参考にしていけばいい手刻みの特徴はタイコ丸太(梁)。又見せ方として碓子配線・込み線を長く2尺程度にするなど消費者目線の独自の基準も必要

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乾燥した国材木材手に入る仕組みをしっかりと構築していくべき ・ 技術にこだわった「ビジネス視点」を表現していきたい。 <p>5. 総括 行政の方も理解され、世の中の施策は変わりつつある。我々の活動を支援してくれる風は変わってきた。住生活基本法の改正などもひとつある。皆様の意見を纏め再考し、我々は補助金・助成金は必要ない。あえて補助金・助成金を取らず、民間のちからで10年後を見据え構築していきたい。</p> <p>6. オブザーブ評論（日本住宅新聞社 荒井） 工務店を経営する中で、ビジネスは切り離せないと思うのですが、技術という点を核にする必要があるのではないのでしょうか？今後の活動に期待しています。</p> <p>7. 閉会（20時）</p>
決定事項	9月2日 厚生労働省職業能力開発局 協力のもと、ポリテクセンター千葉及びポリテクカレッジ千葉への視察を実施
次月開催日時	2015年11月
次月開催場所	本会 事務局会議室
次月議事内容	具体的施策の決定